令和８年６月１日
６月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想…… 1
人間環境大学附属岡崎高等学校
校長　横山　博文 氏
この人に聞く…… 2
バリアフリーミュージカル劇団
「夢バッグ」代表　丹羽　朱見 氏
羅針盤…… 2
大門小学校
校長　紀平　高之
ふれあい…… 3
上地小学校
教諭　天野　圭祐
特　集…… 4
「岡崎宿」を知る石彫巡り
お知らせ…… 6
フォト・ヒストリー… 8
資源回収（昭和41年）
この本を…… 8

教育随想

命はひかり

人間環境大学附属岡崎高等学校
校長　**横山　博文　氏**

私は植物に関わるある体験を通して、「命はひかり」だと確信した時があり、それ以来、どんな命もひかりの存在と感じるようになりました。人や動植物全ての命あるもの、所謂「生きとし生ける全ての命」は光の存在なのです。

さて、私たち昭和の世代には当たり前だと思っている「イソップ物語」のお話の一つに「アリとキリギリス」があります。あらすじをここでは繰り返しませんが、最近の高校生と接していて分かったことの一つが、今の子供たちは生まれた時から正真正銘の立派なキリギリス、ということです。その世代の若人にアリの生き方を見習う気持ちが薄いことは勿論、生き方や価値観を教えることから生じる違和感に、ようやく自分自身が気付いたのです。物語中のアリの生き方こそ人としての美徳の一つだと思いますし、今の豊かな社会はそうした生き方をしてきた多くの先人のお陰で築かれたものだと理解しています。しかし、同時に我が子や次の世代には、叶うことならキリギリスのような生き方をさせてやりたい、それも冬になってもおいしい食べ物が蓄えられている社会にしてあげたい、そんな優しい願いを込めてこの社会を築いたはずです。にもかかわらず、スマホに象徴されるテクノロジーの進化は投資詐欺や特殊詐欺、闇バイトやＡＩによる偽造など、数え上げればきりがないくらい、子供たちを取り巻く社会は願いとは裏腹な、負のスパイラルに陥ったかのような変化です。その負の側面に対する解決策を教育はどう示すことができるのか、新たな技術や価値観に対応する、新たな発想・手法の教育が求められていると、強く感じます。

そのような激動の社会構造や道徳観、価値観の変化の前触れを感じつつ、本校は今年、創立百二十周年を迎えます。明治三十九年に白井こう女史によって設立された本校は、幾多の困難にぶつかりながらも、明治・大正・昭和・平成を経て、令和に至っております。その間に輩出した卒業生は優に一万人を超え、先見の明に満ちたこう女史の教育理念は、今も色褪せることなく、この岡崎の地に根付いていると感じます。現在の学校法人に引き継がれた今も、誠・愛の校訓のもと、岡崎の子供たちの未来を明るく照らす学校でありたいという願いに、変わりはありません。岡崎の悠久の歴史を引き継いだこの町の人々の光でありたい、そんな願いを心に描きつつ、愛媛から赴任している私自身の役割は愛媛と岡崎の、またこの地の過去と未来の懸け橋になることだという自覚を、日々強めるこの頃です。

（よこやま　ひろふみ）

みんなが楽しく、輝ける舞台を

バリアフリーミュージカル劇団「夢バッグ」代表
丹羽　朱見　氏

岡崎市で障がい者の生涯学習を支える活動に取り組んできたバリアフリーミュージカル劇団「夢バッグ」が、令和七年度の文部科学大臣表彰で功労賞を受けた。そこで、代表を務める丹羽氏にお話を伺った。

―劇団発足のきっかけは何ですか―

劇団の前身は、「岡崎手をつなぐ親の会（現：岡崎市手をつなぐ育成会）」の中で活動していた音楽サークルです。知的障がいのある方が社会性を身に付けることを目的として活動していました。私はボランティア講師として参加していました。

二〇〇九年に音楽サークルの二十周年記念コンサートで、初のオリジナルミュージカルを上演しました。障がいの有無を越えて創り上げた舞台が大きな反響を呼び、「次の上演はいつなのか」「ぜひもう一度」という声を多くいただきました。この経験をきっかけに、「誰もが大切にされ、必要とされている」と感じられる場を創りたいと考え、バリアフリーミュージカル劇団を発足しました。劇団名「夢バッグ」には、劇団という小さなバッグの中に、劇団員を含め、みんなの夢や願いを詰め込んで、大きくしていこうという思いが込められています。

―舞台を創る上で大切にしていることや工夫はありますか―

誰もが楽しく安心して演じられることを最も大切にしています。そのため、脚本づくりは、役者一人一人の個性や状況に合わせて、役柄やせりふ、歌を考えるところから始まり、すべてがオリジナルです。そして、練習を重ねる中で、演出もよりよい形へと変化させていきます。

また、役者を支える黒子も大事な役割を担っています。せりふを覚えることが難しかったり、不安で落ち着かなかったりする役者のそばに黒子が付き添うことで、舞台上で安心して演じることができるようサポートしています。この工夫によって、誰もが自分らしく表現できる舞台が実現しています。

―活動や上演の中での、成功や失敗のエピソードを教えてください―

劇団として、失敗と呼ぶものはありません。なぜなら私たちは、劇団員が楽しく演じられることを何よりも大切にしており、全員が楽しめていれば成功だと考えているからです。加えて、役者の魅力を最大限に生かした役づくりをしているため、上演後のアンケートでねらいどおりに魅力が伝わったと感じられたとき、大きな成功を実感します。

また、肢体不自由の方が体験入団された際、「バリアフリーミュージカルと聞いて来たが、知的障がいの方ばかりに目が向けられていて、自分が想像していた意味でのバリアフリーではなかった」と厳しい御意見をいただきました。この言葉をきっかけに、バリアフリーミュージカルの多様な在り方をさらに深く考えるようになりました。

―今後の展望を教えてください―

障がいの有無に限らず、恵まれない環境で苦しんでいる子供たちを含め、より多くの人とつながりの輪を広げたいと考えています。そして、誰もが楽しく、自分らしさを発揮し、輝ける舞台を創り続けていきたいと思っています。さらに、一人一人の魅力があふれる舞台を、もっと多くの方に観ていただける劇団へと成長させていきたいと思っています。

氏名　にわ　あけみ
住所　岡崎市真伝町
劇団のHP

寄り添う心

大門小学校
校長　**紀平　高之**

子供が学校で過ごす日々は、必ずしも穏やかなことばかりではない。時には、保護者から我が子に関する相談を受けることもある。保護者は、様々な感情を様々な表現方法で伝えてくるが、教師の対応次第で、関係は「対峙」にも「対話」にもなり得る。その分岐点は、「心理的事実」に寄り添い、「客観的事実」に丁寧に向き合えるかどうかにあると思う。

本校でも日々多くの相談が寄せられるが、その中で学びの多い場面があった。

子供の下校後、児童Aの保護者から次のような電話があった。

「大好きな祖母に買ってもらった鉛筆キャップをBさんに盗られたと言って、帰ってくるなり泣き出しました。休み時間にBさんが、娘の筆箱から持っていったそうです。これ

「諦めない」ことの大切さ

上地小学校
教諭　天野　圭祐

Aさんには、こつこつ取り組む粘り強さがある。一方で、新しいことや自信がないことには踏み出せない慎重さもある。私はAさんに、今はできなくても、諦めずに取り組めばできるようになることを実感してもらいたいと願った。

五月、算数の授業でAさんの手が止まってしまう場面が多く見られた。私は、「困ったことがあれば、いつでも聞きにおいでね」と声を掛け続け、Aさんがいつでも安心して私を頼ることができるよう心掛けた。すると次第に、「この問題が分からないから、教えてください」と、自分の思いを表現し、問題集を持ってくるようになった。

「じゃあ一問だけ一緒にやろう。あとは自分でできそうかな。」

「うん。」

Aさんは、ゆっくりではあるが、自分の力で前進しようとしていた。

それからほどなくして、体育の授業で跳び箱運動を行った。台上前転である。周囲が練習に取り組む中、思うようにできずに落ち込むAさんの姿があった。すぐには技ができないかもしれないが、算数で見られたような粘り強さで自分と向き合い、更に自信をもてるようになってほしいと考えた。

「算数も、体育も、今までできなかったことができたときが、いちばん楽しいと思えるよ。そう思えるように頑張ってみよう。」

声を掛けるとAさんの不安な表情が、少し和らいだ。

Aさんは、練習方法を工夫することから始めた。いきなり跳び箱で練習するのではなく、恐怖心をなくすため、重ねたマットの上での前転練習に取り組んだ。跳び箱を使った練習では、跳び箱の上で前転するところから始め、少しずつ助走をつけていった。

「先生」とAさんが私を呼んだ。見に行くと、台上前転の一連の動きができるようになっていた。

「すごい。諦めずにたくさん練習したんだね。」

努力したことをほめると、Aさんは少し誇らしげな表情を浮かべた。

その後、「前転した後にマットに落ちてしまい、両足での着地が上手にできない」と、新たな課題と向き合う、前向きなAさんの姿があった。

迎えた次の授業。Aさんが安定して着地ができるように、「タブレットで動きを確認すると、きれいに着地できるこつが見つかるかもね」と助言した。Aさんは動画を見返す中で、前転をするときに、手を着く位置をもう少し前にしたほうがよいことに気づき、粘り強く練習を重ねた。

「先生」とAさんが私を呼んだ。以前よりもうれしそうな声だった。

「できた。台上前転、見てください。」

そこには、見事に技を成功させる姿があった。Aさんは諦めずに練習を重ね、自分自身の力で、心からの「できた」を実感したのである。

着地後に見せたAさんの満面の笑みを、私は今でも忘れられない。

までもBさんから嫌がらせを受けているようで、いじめにあっているのではと心配しています。」

この場面における「心理的事実」は、以下のとおりである。

・Aさんは悲しい思いをしている。
・Aさんは泣くほど傷ついている。
・保護者は、いじめに発展しているのではと強く心配している。

これらは、子供や保護者が「心で感じた事実」である。対応した教師は、その気持ちに寄り添い、つらい思いをさせてしまったことに丁寧に謝罪をしていた。その姿勢が保護者の安心につながり、落ち着いて話を続けられる雰囲気が生まれていた。

一方、「客観的事実」はその時点では確認されていない。ここから教師が行うべきことは、関係児童への聞き取りはもちろん、周囲の子にも様子を確認し、事実を整理したうえで回答することである。そのため教師は、「鉛筆キャップについては、事実関係を確認し、明日ご連絡いたします」と対応方針と期限を明確に伝えていた。

「心理的事実」と「客観的事実」を区別して捉え、まず心情に寄り添うこと。この姿勢を大切にすることが、保護者と学校が同じ方向を向いて、子供を支えていく基盤になっていくのではないだろうか。

「岡崎宿」を知る石彫巡り

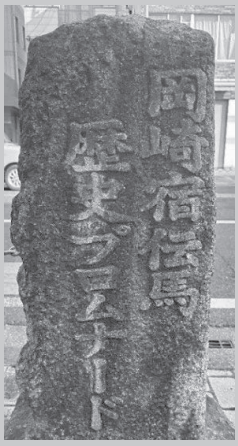
▲岡崎宿伝馬歴史プロムナード（伝馬から伝馬通一丁目を望む）

昨秋、山中・本宿学区に大型商業施設がオープンしたことに伴い、今、岡崎市には多くの人が訪れている。実は約二百年前にも、岡崎には多くの人が訪れ、賑わっていた。

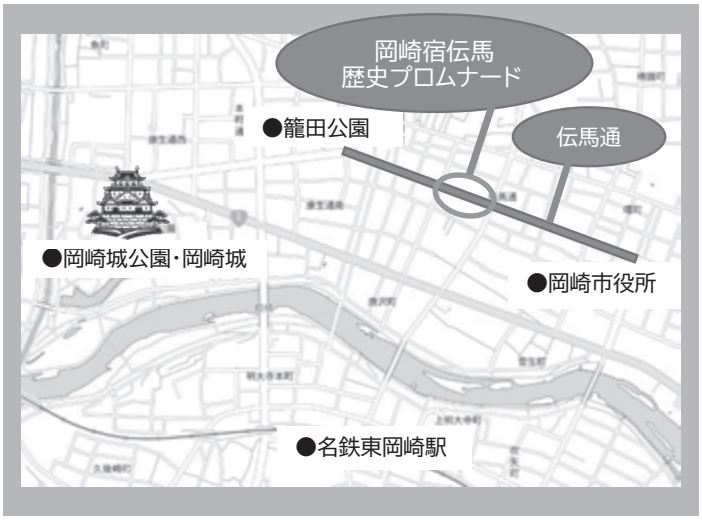
江戸時代、「岡崎宿」は、東海道の中でも三番目に大きな宿場町であった。その中でも多くの店や宿が集まっていたのが、人馬の継立をするとともに、旅籠町でもあった伝馬通である。それは、文政九年当時の家並みが記録されている「傳馬町家順間口書（Ⅰ）」からも伺われる。本陣三軒に加え、百軒以上の旅籠が存在しており、伝馬町は、参勤交代や往来の旅人を支える宿場町として栄えていた。

現在、かつての伝馬の歴史の語り部として、「伝馬」から「伝馬通一丁目」の交差点にかけて、両歩道に二十基の愛らしい石彫が並んでいる。（①～⑳）この通りは「岡崎宿伝馬歴史プロムナード（Ⅱ）」と呼ばれ、石彫一つ一つに宿場町・岡崎の物語が込められている。丸みを帯びた石彫を眺め、傍らの解説に目を通すと、大名行列が往来した岡崎宿の目覚ましい繁栄ぶりが伝わってくる。同時に、その陰で働き、支え続けた人々の苦労や日々の営みもまた、静かに浮かび上がってくる。

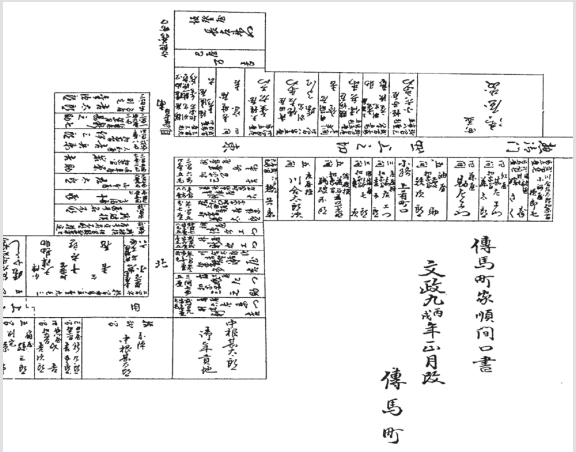
伝馬通を歩き、石彫にそっと触れながら、かつての賑わいを思い浮かべ、往時の岡崎宿に心を寄せてみてはどうだろうか。



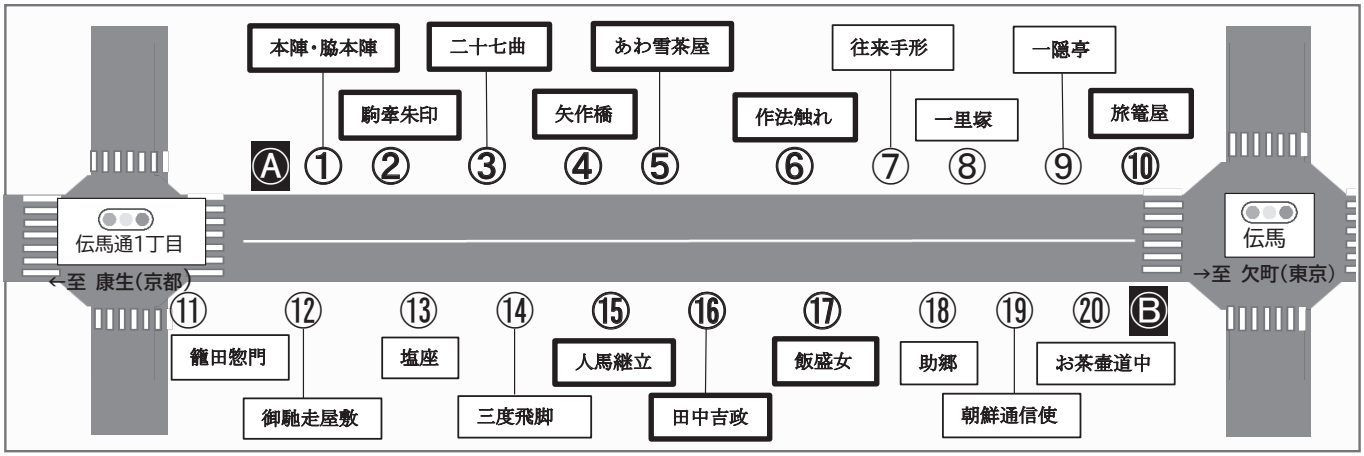
▲Ⓑ岡崎宿伝馬
歴史プロムナードの石碑



Ⅱ　岡崎宿伝馬歴史プロムナードの位置



Ⅰ　傳馬町家順間口書（てんまちょういえじゅんまぐちがき）の一部（新編「岡崎市史」近代3）



▲岡崎宿伝馬歴史プロムナードに並ぶ石彫の位置

▲Ⓐ西本陣跡の石碑

▲歌川広重の作品に描かれた矢作橋

▲④矢作橋

矢作橋は、街道一の規模を誇る橋で、この橋の勇壮さは人々からの関心が高いものだった。歌川広重の東海道五十三次「岡崎」にも描かれ、当時の紀行文や道中日記には必ずと言ってよいほど矢作橋が登場した。

▲⑯田中吉政

▲③二十七曲

天正 18 年（1590 年）に岡崎に入城した田中吉政が開発した、岡崎宿は「岡崎の二十七曲り」と呼ばれ、屈折の多い街並みの長さでも有名だった。

▲①本陣・脇本陣（ほんじん・わきほんじん）

▲⑩旅籠屋（はたごや）

▲⑰飯盛女（めしもりおんな）

参勤交代の時代から、大名や公用旅行者の宿泊所を本陣、脇本陣と呼ぶようになった。これらは、玄関や書院を持つ豪壮な建物であった。天保年間の記録には、岡崎宿には伝馬町を中心に本陣 3 軒、脇本陣 3 軒、旅籠屋（現代の旅館）が 112 軒あったとされる。その後、飯盛女という遊女を置く旅籠屋も現れ、庶民の旅行が増え始めた江戸中期頃には、旅籠屋の競争が激化した。

▲⑥作法触れ

「作法触れ」は、大名行列などの場面における街道や宿場内での諸注意である。決められた場所に提灯を出すこと、ほら貝、鐘、太鼓などを鳴らさないこと、通行に際し土下座をすることなど、事細かい指示がなされた。

▲⑤あわ雪茶屋

江戸時代、多くの旅人に親しまれた岡崎宿名物の食べ物といえば「淡雪豆腐」。

当時、あわ雪茶屋で提供されていたのは、葛や山芋をベースにした醤油味のあんをかけた、あんかけ豆腐だった。

▲⑮人馬継立（じんばつぎたて）

▲②駒牽朱印（こまびきしゅいん）

旅行者は、宿場ごとに馬や人足を雇いながら旅をした。東海道では、53 か所でこうした継立をしたので「東海道五十三次」と呼ばれた。「駒牽朱印」は、徳川幕府が公用に伝馬を使用するときに用いた権威ある印鑑であり、この印が押された朱印状を持った幕府公用の旅行者は、人足・馬の継立、本陣の宿泊が優先的に許された。

●令和八年度研究発表校

本年度の研究発表校は、市委嘱の発表校が三校、自主発表校が一校である。

○市委嘱研究発表校

・岡崎市立矢作南小学校
（教科指導）
学びをデザインする子供の育成―学びの土台づくりとファシリテーションの工夫―
十月十四日(水)

・岡崎市立南中学校
（教育全般）
よりよく生きるための、生徒エージェンシーの育成―みなみサイクルを取り入れた道徳・特活・総合を通して―
十月二十一日(水)

・岡崎市立竜谷小学校
（教科指導）
「学ぶ力」を磨き合い、未来社会の創り手となる子供の育成～情報活用能力を学習の基盤として整える取り組みを通して～
十一月十一日(水)

○自主研究発表校

・岡崎市立竜海中学校
（教科指導）
未来を見つめ、自己の創造に向かう生徒の育成―教科の学習内容の有用性を実感できる授業の実現を通して―
十月七日(水)

・愛知教育大学附属岡崎中学校
十月六日(火)

・愛知教育大学附属特別支援学校
十一月六日(金)

・愛知教育大学附属岡崎小学校
十一月十八日(水)

●表　彰

◆第4回東海4県中学校選抜剣道大会

○中学生男子の部
出場　岡崎CENTRAL

◆第38回中部日本個人・重奏コンテスト本大会

○重奏の部
・打楽器三重奏
銀賞　岡崎WEST
澤田　朱里
稲石　莉乃
石内　絵麻

・管楽八重奏
銅賞　岡崎WEST
角谷　鷲・岩崎　真子
山本　音有・酒井　友芽
谷脇　聖椰・鈴木一千花
縄　一花・都築　花

◆第33回愛知県ヴォーカルアンサンブルコンテスト

○中学生部門
金賞　岡崎EAST(Ryu)
金賞　岡崎EAST(Kai)

●小中学校のようす

令和八年度岡崎市内の小中学校の概要（五月一日現在）である。

昨年度と比較すると、一校当たりの児童・生徒数の平均は、小学校が十五名の減少、中学校が十三名の減少となった。通常学級数は、小学校は二十一学級減、中学校は七学級増である。中学校の学級数が増加した理由は、新たに二年生が県基準で定数三十五名となったからである。特別支援学級数は、小学校が十四学級増、中学校は五学級増となった。

岡崎市内の小学校の全児童数は、七百二十二名減少し、中学校の全生徒は、二百五十名減少した。総数では、九百七十二名の減少となった。

教員数は、十五・五名(暫定・定年前再任用ハーフは〇・五人としてカウント)の増加となった。市任期付教員十六名、再任用教諭は四十九名(実数)である。

●学年別児童・生徒数（人）（令和８年度５月１日現在）

	小学校						中学校		
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
男	1,503	1,599	1,704	1,663	1,794	1,828	1,793	1,859	1,858
女	1,400	1,490	1,600	1,684	1,803	1,669	1,704	1,779	1,832
計	2,903	3,089	3,304	3,347	3,597	3,497	3,497	3,638	3,690

●学校・学級の規模

	小学校	中学校
1校当たり児童・生徒数	420人	541人
通常学級数	696学級	318学級
特別支援学級数	219学級	79学級

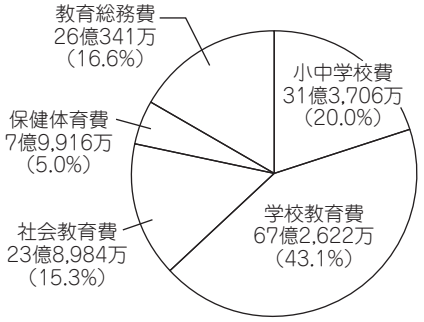
●児童・生徒・教職員数（人）（令和８年度５月１日現在）

区分	学校数	学級数〈内特別支援〉	児童・生徒（人）			校長・教頭・教諭（人）※再任用教諭・臨時的任用講師（欠員補充）を含む〈内市任期付〉	栄養教諭・職員（人）	事務職員（人）	養護教諭（人）
			男	女	計		県	県	県
小学校	47	915〈219〉	10,091	9,646	19,737	1,244〈16〉	8	61	50
中学校	20	397〈79〉	5,510	5,315	10,825	732	4	29	23
合計	67	1,312〈298〉	15,601	14,961	30,562	1,976〈16〉	12	90	73

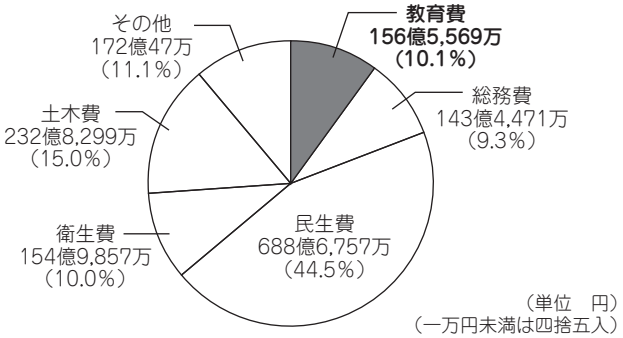
（再任用ハーフは0.5カウント）

令和８年度　岡崎市の教育予算

〈教育費の内訳〉令和８年度 156 億 5,569 万



〈一般会計予算〉令和８年度 1,548 億 5,000 万



（単位　円）
（一万円未満は四捨五入）

◆ 令和８年度　主な新規・拡充事業

○中学校特別教室に電子黒板を整備

☆全市立中学校の理科室に電子黒板を各１台整備。
☆一人一台タブレット端末等と連携し、子供の学びを他とつなぐ「学びのインターフェイス」としての役割を果たし、誰一人取り残さない学びの実現を目指す。

○少人数学級の継続実施

☆令和５年度は小学１年生、令和６年度は２年生で 32 人学級編成を実施。令和８年度は令和７年度に続き、１・２年生での継続実施。
☆少人数学級の実現により、個別最適な学びの促進や、いじめや長期欠席の減少などの効果が期待できる。

○校内フリースクールを小学校１校に増設

☆全市立中学校、小学校５校に加え、小学校１校にフリースクールを設置。
☆児童生徒の多様性への対応による長期欠席の未然防止。
☆教室復帰だけでなく、社会的な自立を目指した支援の充実。
☆校内フリースクール利用生徒・児童の自己肯定感や自尊感情の向上。
☆個の学習状況に応じた指導や配慮の充実。

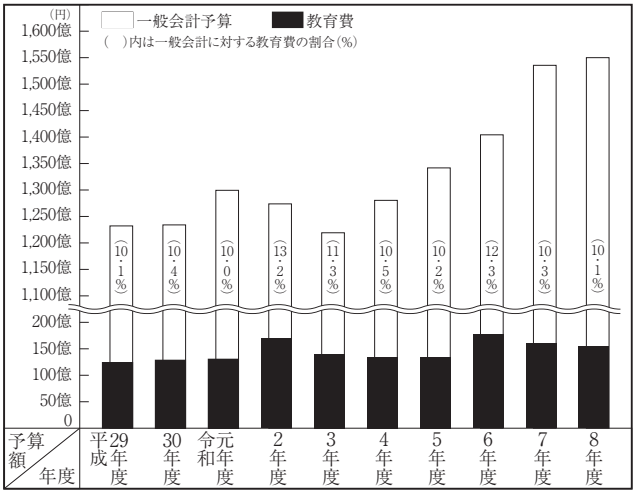
○中学校屋内運動場空調設備の整備

☆全市立中学校の屋内運動場及び柔剣道場に空調設備を整備。
☆令和８年６月末空調設備設置完了予定。令和９年２月末断熱工事完了予定。
☆体育の授業や体験活動等で活用する際の環境改善。
☆災害時の避難所としての機能向上。

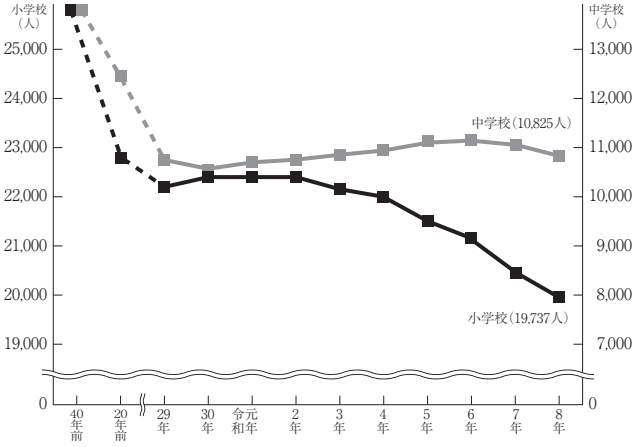
○福岡中学校テニスコート夜間照明設備の整備

☆地域ブロック部活動への移行に伴い、ソフトテニス部の活動場所の確保。
☆中央総合公園や龍北総合運動場から遠い南方面の拠点となる福岡中学校に整備。令和８年 12 月完成予定。
☆平日の夜間練習に対応。

◆ 一般会計予算と教育費の推移



◆ 児童・生徒の推移（数字は毎年５月１日現在）



教職員の相談窓口

【対象】全教職員　　【相談内容】・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと　等

相談窓口	電話番号	相談受付日時	あいちこころのサポート相談（SNS）
岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日　12:00 ～ 19:00 土曜日　12:00 ～ 16:30	LINE 友だち追加・ID検索 @aichi_soudan
あいちこころのサポート相談（SNS）	右QRコード	月曜日～土曜日　20:00 ～ 24:00 日曜日 20:00 ～ 翌月曜日　8:00	
愛知県総合教育センター教育相談	0564-83-9743	月曜日～金曜日　9:00 ～ 17:00	
あいちこころのホットライン 365	052-951-2881	年中無休　9:00 ～ 20:30	
愛知いのちの電話	052-931-4343	年中無休　24時間	

フォトヒストリー

資源回収
（昭和41年）

写真提供：葵中学校

この写真は、多くの新聞紙や雑誌等をトラックの荷台に回収している様子である。学生帽を被った生徒らが手伝っている。

昭和の時代から、ごみの削減やリサイクルのために、資源回収は行われているが、その目的や方法は、少しずつ変化している。葵中学校では、平成二十七年から、東日本復興支援活動の一環として資源回収をし、その収益金を被災地に送り届けている。生徒は月に一回、家庭から新聞や雑誌、アルミ缶等を持ち寄る活動を続けている。

資源回収などのボランティア活動を通して、生徒一人一人が自分にできる社会貢献について考え、主体的に行動し、支え合おうとする心を育てることができる。

・カット　竜海中　杉山美咲

ホッと

水無月

本来もつ一人一人の個性に合わせて内容を考え、黒子の存在により、安心して演じられる工夫がなされている。それは、自分らしさを発揮し、誰もが輝ける舞台を創りたいという思いからである。

私自身も教育の場で、子供たちが安心して過ごし、自分らしさを存分に発揮できる居場所づくりに一層力を注いでいきたい。

東海道五十三次の中でも、三番目に大きな宿場町、岡崎。歌川広重の作品に描かれた雄大な矢作橋や、屈折の多い「二十七曲り」と呼ばれた町並みは、今も残っている。

未来を生きる子供たちが、かつての賑わいに思いを巡らせ、歴史に触れる学びを通して、故郷岡崎を守り、大切にし続けようとする心を育みたい。

つまずくことは誰にでもあり、不安が伴うものだ。それでも教師は子供の力を信じ、温かく励まし続ける。その言葉は、暗闇の中に差し込む一筋の光のように、子供の心を優しく照らす。

人は、誰かに信じてもらうことで、前に進む勇気を得る。教師の励ましは、子供にとって確かな希望となるに違いない。

▲もうすぐプール開き
（額田中）

この本を

＊10代の子どもの心の守りかた　普川くみこ
実務教育出版　¥1, 600

心に残った一文

相手が聞いてほしいように聞く

沈黙の奥に隠された「声なき心」をつかみ、子供たちの本音を基に、大人たちがどのように彼らの心を守るべきかを具体的に示した一冊である。

子供の声に耳を傾けることは必要である。しかし、子供は本当に聞いてほしいと思っているのか。何を聞いてほしいと思っているのか。時に教師は、自分が聞きたい答えを導くための問いを子供に投げかけてはいないか。聞いてあげるという意識が、知らぬ間にエゴとなり、子供の心の声をかき消してはいないか。「聞く」というのは単純だが難しい。子供の声に、耳だけでなく心を傾けることのできる教員でありたい。

＊脇役になれない子どもたち　桑島　隆二
アメージング出版　¥1, 630

＊文体のひみつ　三宅　香帆
サンクチュアリ出版　¥1, 200

＊伝わるコツ　山本　渉
すばる舎　¥1, 500

林　正彦